

きくせん交流会を開催しました

冒頭の自己紹介では、「きくせん協働ガイドブック」をもとに、参加者が自身の所属する団体ページを紹介しながら日ごろ地域で取り組んでいる活動をPRしました。

後半は各々がこれからやってみたいこと、協働したいことを話しました。「ウクライナの絵本でぶくろをきっかけにした絵本探検」(やなぎ文庫)「地区センター祭りなどへの出張ワークショップ」(キクルデツクル)、「コーヒ一杯の金額の寄付から始めるサポータープログラム」(うまのあと)などを発表すると、参加者たちは熱心に聞き入りました。

4月、市民協働センターは7年目を迎えました。新年度も皆さんの活動を支援しながら、地域の協働、連携の輪が広がるよう進めていきます。

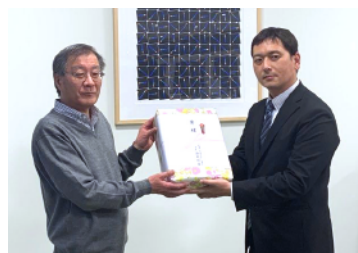


プラザきくる周辺 賑わい創出



フリーペーパー KIKUGAWA ART が発行されます

常葉大附属菊川高校のみらい学講座に参加した生徒が、菊川の魅力を発信するため市内のアートイベントや気になるお店を取材し記事を作成。アートコラールきくがわがデザイン協力し、4月下旬に発行されます。



わくわく学習会に文房具を寄贈

掛川、菊川、御前崎市の労働組合約70団体でつくる「東遠地域労働者福祉協議会」は、経済的な理由などで学習塾に通えない子どもの学習や居場所づくりを支援する「わくわく学習会」に文房具を寄贈しました。

参加者募集！

体験型ファシリテーション入門講座

学校、職場や地域で開催されるミーティングや会議で、話がうまく伝わらない、まとまらない…そんな悩みはありませんか。ファシリテーションはそんなモヤモヤを解消し、参加者から様々な発言を引き出し、スムーズなコミュニケーションを後押しする方法です。会議を図や絵にするグラフィック・レコーディングもあわせて、ファシリテーションを体験してみましょう！

5月22日(日)

13:30 ~ 16:30

at プラザきくる3階 会議室



対象

ファシリテーションに興味がある方どなたでも

参加料

500円(資料代等)

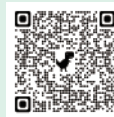
講師

コミュニティファシリテーター 土肥潤也氏

定員

20名

氏名、所属団体、住所、電話番号、メールアドレスをご記入の上、メール、FAX、申込みフォーム(QR)から申込みください。



申込み&問合せ 菊川市市民協働センター

メール / kikucen1@sage.ocn.ne.jp TEL・FAX / 0537-35-2220



7 土	菊川魅力たっぷりツアー 10:00～16:00 菊川市内各所 (集合: 市民協働センター) 参加費: 3000 円	主 きくがわ未来会議 問 0537-35-2220 (市民協働センター)
7 土	2022 愛鳥週間「菊川河川ファミリーバードウォッチング」 9:00～12:00 菊川河川敷 (集合: 文化会館アエル駐車場) 参加費: 無料	主 環境菊川野鳥の会 申 090-5623-6456 (谷許)
9 月	夕暮れカフェ ゲスト: 日本ギャップイヤー協会 ナヤー友里佳 18:30～19:30 市民協働センター 参加費: 500 円 (お茶菓子代)	主 市民協働センター 申 0537-35-2220
10 火	ひろまちコラボ～ごみを拾い、まちを広げる～ 7:30～8:00 きくる広場 (プラザきくる東側公園) 参加費: 無料	主 きくがわ未来会議 問 0537-35-2220 (市民協働センター)
15 日	OSOTODE CHA PROJECT (おそとで茶プロジェクト) 大人 2,000 円 小中学生 500 円 10:00～14:00 火剣山キャンプ場 (富田 3126) 参加費: ※未就学児 無料	主 菊川市地域おこし協力隊 問 090-6387-8011 (大山)
21 土	「つながる菊 Café」第 1 回 お茶を通しておもてなしの心を知ろう 14:00～16:00 プラザきくる 2 階 多目的エリア 参加費: 500 円	主 つながる菊 Café プロジェクト 申 tunagarukikucafe@gmail.com
22 日	菊川スイーツきくるん 10:00～15:00 プラザきくる & きくる広場 入場料: 無料	主 炎衆北斗 TRIBE 問 080-5169-1492 (永田)
22 日	体験型ファシリテーション入門講座 13:30～16:30 プラザきくる 3 階 会議室 参加費: 500 円 (資料代等)	主 市民協働センター 申 0537-35-2220

菊川びとにインタビュー

日本ギャップイヤー協会 ナヤー友里佳さん



ナヤー友里佳さんは御前崎市で生まれ、小5～中2の4年間でマレーシアで過ごしました。常葉大附属菊川高校卒業後、マレーシア留学予定がコロナ禍で延期になった時に、卒業や就職、人生の節目に前向きな社会体験をするギャップイヤーを知り、日本ギャップイヤー協会を立ち上げました。その後、ナヤーさんはデンマークで学校に通い、ヨーロッパを旅し、ボランティアも経験。帰国後、これらの経験を地域に活かしたいと思い、2月から市民協働センターで働いています。「新たな進路選択や生き方の一つとしてギャップイヤーを知ってほしい」と呼びかけています。▶次回は常葉大附属菊川高校の橋本勇輝先生です。

レポート

てんてん詩集展



3月25日から27日までの3日間、菊川赤れんが倉庫で「てんてん詩集展」が開催され、およそ500人が来場しました。東京の(一社)野ノ編集室が主催し、デザイナーや詩人、玉川大学などの運営チームと市内NPOが協働で開催。この取り組みでは菊川市民がコロナ禍で一人の時間をテーマに書いた90篇の詩を様々な形で表現しました。詩集の販売のほか、詩の一節をデザインしたのれんや、書籍に掲載されたイラストの原画などを展示。訪れた人たちは、普段触れることのない街の人々の瑞々しい詩をじっくりと味わったり、美しいのれんのデザインや空間演出に見入ったりと、地域の文化芸術を楽しみました。